

山に実り（液果・堅果）がないという大異変

**食料を求めて出てくるクマたちに
里の実りを分かち与える共存策を！**

— クマたちへの追いかけ回しが、人身事故発生につながる —



～豊かな森を次世代へ～

一般財団法人 日本熊森協会（実践自然保護団体）
（本部事務所）〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4
Tel : 0798-22-4190 Fax : 0798-22-4196

Mail: contact@kumamori.org

会長 室谷 悠子

設立1997年 会員17000人

2019年に引き続き、2020年の今年も全国的に山の実りが凶作～大凶作の上、ドングリ類を枯死させるナラ枯れが全国的に大発生しており、クマの本来の生息地に食料がない危機的な状況が発生しています。

奥山の自然林の急速な劣化は酸性雨（雪）や地球温暖化による異常気象等が考えられますが、いずれにせよ、人間による環境破壊の結果です。

今年も、大量のツキノワグマが食料を求めて人里に出没し、大量捕殺が続いています。罠により容易にクマを誘引し、捕殺できること、中山間地域の過疎と高齢化により、クマを寄せ付けない集落づくりができなくなっていることも、乱獲に拍車をかけています。

このような状況を放置しておけば、クマの生息数は激減し、地域的な絶滅も必至です。

人による環境破壊にあえぐクマとの共存のためには、人間の寛容さが必要です。捕獲の抑制と人身事故を防ぎながらの共存対策が急務です。

24年間、クマ棲める森づくり、人身事故防止やクマとの共存のための実践活動、調査研究を続けてきた自然保護団体として、以下のとおり、環境省、都道府県、地元市町村に緊急対応を提案します。

【クマとの共存のための緊急提案】

1 里のどんぐり、オニグルミ、カキ・クリなどをクマに分けてやってください。人身事故の危険がある場合は、もいで山へ運んでやってください

栄養補給ができればクマは山に戻って冬眠します。緊急事態として人里周辺の木の実を食べに来たクマには近づかないでそっと見守ってください。木の実と民家が近く、人との接触の可能性がある場合は、実をもいで、山へ運んでやってください。

2 人身事故が起きないようにするためにも、できる限りの捕殺抑制を

ただ出沒しただけで、子グマや親子グマまで大勢の人たちで追いかけて捕殺しており、過剰反応が起こっています。クマは恐怖のあまりパニックに陥り、人身事故を起こすようになります。捕殺をできる限り抑制することが必要です。

3 クマが里に出てくるのを押さえるために、山裾にクリなどを植え、クマ止め林を造る必要があります

奥山の自然林劣化の回復には時間がかかり、今後も奥山のエサ不足の頻繁な発生が予測されます。クマが人里に出て来ないように、集落から離れた里山にえさ場を作っていくべきです。

4 潜み場除去のための草刈りや誘因物除去など人身事故防止対策の徹底を

人とクマの至近距離での突発的な遭遇が人身事故の原因です。過疎と高齢化により、これまでできていたクマを寄せつけない集落づくりができない地域が多くあり、公的支援が必要です。

5 根本対策として、奥山の生息地の復元を

奥山にクマの生息環境があれば、クマと人は以前のように棲み分けて共存することができます。時間はかかりますが、根本対策である放置人工林の広葉樹林化や奥山自然林の劣化を止めるための土壌改良など、さまざまな対策が急務です。